

秩父今宮神社崇敬会(仮称)

「会報」 第一号〈準備号〉

平成十九年三月三日

— 崇敬会設立の準備と

会報紙の発行について—

「今宮神社崇敬会を立ち上げよう」。今、崇敬者の中で、こうした声が高まってきております。平成四年、古代からの由緒をもつ秩父今宮神社が神社活動を再開してよりこのかた、そうした声は確かにずっと存在しました。現にここ十年來、全国各地に多くの崇敬者が誕生し、奉賛の熱誠が神社に捧げられてきました。

しかし、「崇敬会」の足元実現にまで至らなかつたのには、人知の及ばぬ理法というものがあつたのであります。そして、**「期が熟す」という言葉を思い浮かべます。**

今宮神社に祀られる神仏の恵みから想起される「水と自然」「和の心」といったキーワードが、いよいよ抜き差しならぬ緊急の課題として、人々の胸に切迫しているのかもしれない。

「崇敬会」の必要性を主張する声が大きくなるとして、いよいよ水面に沸きあがってきたのです。

本殿・拝殿の建設(現在はあくまで仮本殿です)、境内の一層の整備、ソフト面の更なる充実、研究会などの開催……。思い描く事柄は各人各様でしょうが、それら様々な声を集約し、公開し、検討する場や組織は必要でありましょう。

「崇敬会(仮称)」の設立を準備する意味合いも込めて、ここに**「会報紙・第一号〈準備号〉」**をお届けする次第です。

【今宮神社崇敬会(仮称)設立準備委員会】

【同会報紙発行委員会(仮称)】

— ご挨拶 —

今宮神社宮司 塩谷治子

神社としての活動を再開したのが平成四年。以来、十余年の歳月が過ぎました。

振り返れば、社会・経済の局面においても、また精神生活の側面においても、私たち日本人はさまざまな壁に突き当たり、ときに困惑と苦悩を抱えたまま進むべき方向を見失うという、多難な歳月であつたような気がいたします。

こうした困難な時代にあつて当社が、一歩一歩ずつではあります、明るい未来への展望を描きうるかたちで前進し、ここまで来ることができたのも、崇敬の皆様がそれぞれの力を結集し、ご支援とご声援をお寄せくださったからであると、心より感謝申し上げます。

ご承知のとおり当社には、命の根源である「水」を司る「八大龍王神」をお祀りもうしあげております。「水」はあらゆる生命にとって不可欠なものであります。かく私たちは「水」を汚すことに鈍感でありました。

しかし最近、この「水」をふくめ「本当に大事なこと」に気づき始める方が増え、「ようやく来るべき時代が来たのだ」と実感する機会が多くなつております。

神社をお守りする者として、何はともあれ一所懸命に考えて、日々努力をしているということだけを、皆様にはお伝えしたいと存じます。これからは皆様と共に、「正しいものは正しい」と、「迷わず筋の通つたことをすればいい」と、不動の心で、倦まず弛まずの歩みを続けていきたいと改めて決意しているところです。

今後とも皆様のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

— 四月四日「龍神祭」のご案内 —

別添(ご案内)のとおり四月四日午前十時三十分より、平成十九年「龍神祭」が執行されます。生命の源である「水」をつかさどり、慈悲の菩薩さん「観世音」を守護する神でもある「八大龍王神」に報恩感謝を捧げるとともに、万物が共生する平和な世界が実現するよう祈願します。祭典では、

流泉の会・中村文子さん他の琉球古典舞踊が奉納されます。祭典に続き十二時から直会です。

なお当日は午後二時から「水分祭」も斎行されます。秩父神社から神職・神部の皆さんが市街を御神幸しながら今宮神社を訪れます。そして今宮の恵みの水を象徴する「水幣」を戴いて持ち帰り、秩父神社で「御田植祭」を執行して今年一年の豊作を祈願します(第三面の「龍神池」の項参照)。

秩父今宮神社へ八大龍王宮へ

こんなお宮です

今宮神社の略史

最初の鳥居をくぐってすぐ右手に「龍神池」がありますね。

ここには、はるか太古から霊泉が湧き出ていたといえます。秩父の霊山である武甲山に発した地下水が下ってきて、ここ今宮神社の境内で地上に噴き出しているのです。ですから、あらゆる生命を育む水が存在する聖なる場所として、古代より、親神である伊邪那岐命・伊邪那美命の二神が祀られていたのです。



やがて大宝年間といいますが、まもなく奈良時代に入るといふ頃、役行者という尊い方が飛ぶようにやって来て、「水」をつかさどる偉大な「八大龍王神」を祀りました。宮中でお参りされる「宮中八神」も合わせて祀ったとも伝わっています。役行者は、仏も神も大切にしながら修行をする「修験道」という信仰を開いた方。また「八大龍王」は「水」の神であると同時に、

観音菩薩という仏教の中の尊い方の守護神でもあります。

このように当地は古くから、あらゆる尊きものを包み込むように、神仏を別け隔てなく尊敬する日本人の、「和」の心を象徴するところだったのです。



平安時代の初めになると、弘法大師の名で知られる空海というお坊さんがやってきて大日如来を奉り、これがもとで大宮山満光寺と、長岳山正覚院金剛寺が建てられました。平安中期には観音堂(秩父観音霊場の一つ、現在の十四番札所)の建立、後期には熊野権現の勧請(神仏の分霊を招き祀ること)、八大権現社の建立……と続き、ここに至って、現在の今宮神社の地は、数多くの社殿や寺堂や祠を持つ一大修験道場となりました。



室町時代の末期、全国的に疫病がはやると、京都の今宮神社から須佐之男命を勧請し「今宮神社」が創建されました。このころになると、いわゆる「秩父三十四ヶ所霊場」の体制も整い、秩父地方は全国有数の観音霊場として名を知られるようになります。

そして今宮の地が、その秩父霊場の「発祥の地」といわれるのも、それ以前から霊地として、また信仰と修行の拠点として、尊ばれていたからにはかなりません。

そして永禄十二年(一五六九)、現在よりはるかに広大な境内を有するこの霊地は、寺社を総合して「長岳山今宮坊」と称され、本山修験宗の総本山「聖護院」(京都)の主要な直末として、江戸時代をうけて隆盛を極めていったのです。

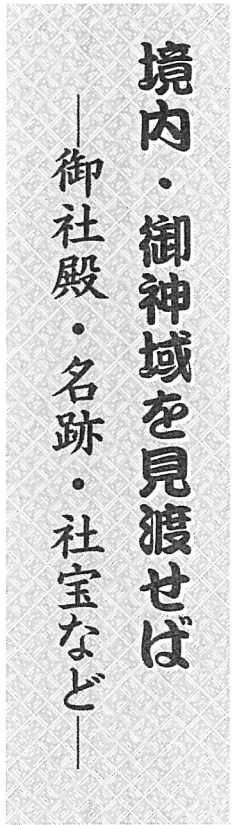


明治維新で政府は神仏分離令という法令を全国に下し、「長岳山今宮坊」も、「今宮神社・八大宮」と「今宮観音堂」というようにお寺と神社に離されてしまいました。

第二次大戦後は、時代の要請を見越した御神意もあつたのでしよう。御神域は半世紀にわたって、「児童公園」として開放されました。地元をはじめ社会の各分野で力強く活躍する人々が、子供の頃、ここで無心に遊んだ懐かしい思い出を語る場面があるといえます。これも御神慮の成就なのかもしれません。



そして平成四年、御神慮に感謝しつつ、今宮神社は神社としての活動を再開しました。以来、百三十年ぶりという龍神祭の復活、篤志者による役尊神祠(行者堂)の建立、新たな行者祭の斎行、一歩ずつ進む境内の整備、そして、御祈願者へのおもてなしや境内清掃に率先してご奉仕する崇敬の人たち……。古き由緒に立ち返り、日々に新たな信仰の軌跡が刻まれていきます。神仏合わせた力と、正しい教えで道を切り開く今宮神社の御神徳は、まさに「今」の時代の要請でもあるのです。



境内・御神域を見渡せば

御社殿・名跡・社宝など

龍神木

右の略史にある「八大龍王神」が棲むという御神木。胴まわり九メートルに近い大樫(おおけやき)。推定樹齡は一〇〇〇年以上。徳川家康が領地の探査で秩父を訪れた際、この大樫に馬をつないだところから「駒つなぎのケヤキ」とも。埼玉県指定天然記念物。

龍神池

太古からの霊泉であることは略史の通り。毎年四月四日に執行される「水分祭(みくまりさい)」では、この霊水を象徴する「水幣(みずぬさ)」が秩父神社に授与される。同神社ではそれを練り広げる。同日、「御田植祭」を練り広げる。十二月三日に同神社で行われる有名な「秩父夜祭」は収穫の無事感謝して霊水を再び山に返す意味もある。

行者堂

正式には「役尊神祠」。役行者を祀る。平成七年に竣功し、同

九年には聖護院の加来徳泉門跡による採燈大護摩供が執行され、大恩感謝とともに世界平和が祈念された。同十一年には、役尊神(一三〇〇年報恩祭(一三〇〇年大御忌))を執行。以来、毎年六月第一日曜りに役行者祭が行われている。

偲石

明治天皇の崩御に際し、時の塩谷啓山宮司はじめ崇敬者らが荒川河岸から奉曳、安置した。以来、同天皇の御聖徳を偲ぶようすがとってきた。直径約九一センチ、重さ約一九〇〇キロ、丸みを帯びた紫褐色の自然巨石。平成十八年、新たな祀場に整備・移設された。

このほか、「馬頭観音像」「行者石」「青龍の滝」などが境内に鎮座・存在する。また神社として「今宮坊古地図」「古文書類」など、史料多数を有する。

廠かで、しかも楽しいお祭り日

年間行事予定

四月四日

龍神祭(八大龍王神のお祭り/略史および上記参照)

水分祭(略史および上記の「龍神池」の項参照)

六月三日(本年)

行者祭(役行者のお祭り/略史および上記の「行者堂」の項参照)

六月三十日

夏越の祓(半年分の罪穢れを祓い後半年の活力をいただく)

九月二十八日

例大祭(秩父今宮神社のお祭り)

十二月三十一日

大祓(一年の罪穢れを祓って新年を迎える)

お祀りされる神、仏、菩薩

御祭神

- 伊邪那岐大神・伊邪那美大神
- 須佐之男命
- 宮中八神
- 八大龍王神
- 役尊神(役行者)神変大菩薩
- 聖観音神
- 弁才天・八幡神他

年に二回は正式参拝

御祈願日

金・土・日・月曜日

電話で予約のこと

鑑定受付いたします

この四月、受付開始

運勢

地鎮祭・建前日

赤ちゃん命名

地相・家相・墓相

……ほか

場所 今宮神社にて

鑑定日 毎土曜日

受付連絡先

電話〇四九三(二二)四七一七

勝 呂 晃 朱

占いとは心のオアシス。自分が如何なるものかを知って進む、迷った時の道標。そして宿命には変えられない運命と変えられない運命とがある。運命は人との出合いで変わる。

「皆さんと一緒に作る
楽しい「会報紙」に—
アイデア・ご意見をお待ち
しております」

当紙は「秩父今宮神社崇敬会(仮称)」の発足に向けた「準備号」であるとともに、同会の会報紙を定期的に発行していくための「準備号」でもあります。

「会報紙」というだけで、まだ正式な名前も付いていませんし、中身についても色んなテーマを検討中です。「こんな記事があったら面白い!」「私も原稿を載せたい!」などなど、崇敬者の皆様の、様々なアイデアをお聞かせください。

神社の「お知らせ」、行事・祭事のご報告、幾つかの連載—それ以外は、ご意見の場、皆さんが参加・登場できる場とし、堅苦しくなく、楽しい紙面にしていきたいと考えております。

そして近い将来には、お宮の発展とともに、「会報紙」のほうもポリューム、体裁、発行回数とも充実したものになれば…と夢を描いております。

まずは、境内や御社殿の整備に関するアイデア、今宮神社にお参りしながら日頃思っていることなど、皆さんのお声をお待ちしております。

「昨年のトピックス—
幾つかの出来事—
をご紹介します」

「偲石」を祀る新祀場が完成

明治天皇の御聖徳を偲ぶ「偲石」を安置する新たな祀場が整備されました。御本殿前の鳥居に向かって右手に完成した新祀場は竹垣に囲まれ、自然巨石「偲石」とともに、一本松と石造「五重塔」が配されています。

平和を愛好した同帝の御崩御に際し、往時の塩谷啓山宮司と崇敬者らが荒川河畔より奉曳・安置した「偲石」。その精神を忘れまいという現・宮司らの意向を受けて、原千春さん(福岡市)などの奉納により整備と移設が実現しました。

昨年十二月二十三日(今上天皇誕生日)に竣功奉告祭が行われ、列席者全員が「偲石」に玉串を奉り、伊勢神宮奉獻行事プロデューサーのジェームス川田さんらが特別奉納を行いました。

「馬頭観音」に竹垣の整備

「馬頭観音」周辺の整備事業が完了しました。栃木県小山市の高見良平・キヌ子ご夫妻の篤志により、観音さまを竹垣で囲

む工事が進み、観音さまをお守りする界域が出来上がりました。

「掲示板」が幾つも建ちました

参拝者への配慮として、境内を案内、説明するための「掲示板」が幾つも立ちました。崇敬団体「江戸川講」(代表・稲生喜久子さん)が中心となって奉納されたものです。

「祈願者が増えています」

正式参拝によるご祈願の方々が昨今、増えております。祈願日は金・土・日・月曜日の週四日間で、電話での事前予約制ですが、週末になると朝から夕方まで、ご祈願者がひっきりなしに神社を訪れます。後日、成就した神恩に感謝を込めて参拝する方が多いようです。

「奉仕者が日々活躍しています」

境内のお掃除や祈願者への接待など、ご奉仕の方々が毎日、地道に、そして熱心に活躍しています。

「江戸川講」のほか、やはり崇敬の、埼玉県久喜市在住者を中心とした「滝沢グループ」、東

京・城南地区の「遠藤グループ」などがあり、交替でお掃除やお宮の活動に奉仕しています。個人的にお手伝いに来る青年たちも日々、活躍中です。

【協賛】

御神木の樹木医

(有)雨宮植物園

秩父市上野町

電話〇四九四(二二)二二二六

運命鑑定士

勝呂晃朱

(社)日本易学連合会公認

今宮神社・八大龍王宮認定

東松山市松山二三五六ノ四六

電話 〇四九三(二二)四七一七

平成十九年三月三日

発行 今宮神社崇敬会(仮称)

会報紙発行委員会(仮称)

〒三六八〇〇四三

埼玉県秩父市中町十六一〇

秩父今宮神社内

電話 〇四九四(二二)三三八六

FAX 〇四九四(二二)三三三二

http://homepage2.nifty.com/imamyaj/

又は「今宮神社」で検索して下さい。